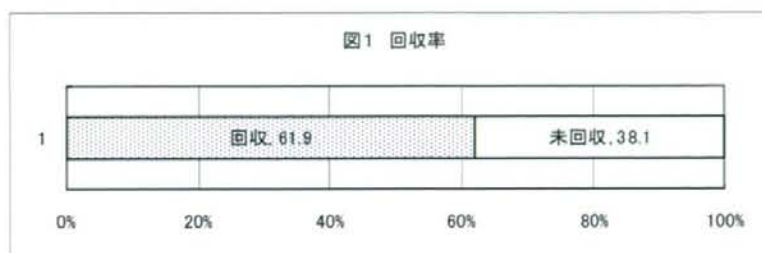


<結果>

1) 回収数（回収率）

回収数は73人（回収率61.9%）であった。（図1）

n=118



2) 基本属性

(1) 性別

男性17人（23.3%）、女性56人（76.7%）であり、女性の方が多かった。（表1、図2）

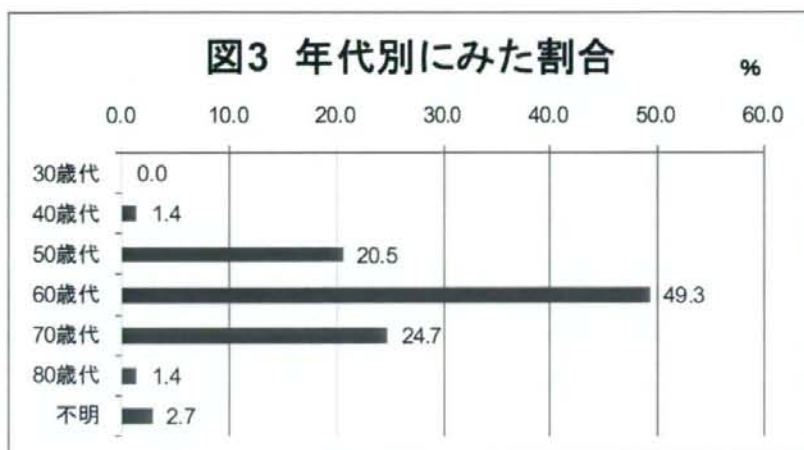


(2) 年齢

60歳代が36人（49.3%）と最も多く、次いで70歳代の18人（24.7%）であった。80歳代も1人（1.4%）と、高齢者が多かった。（表1、図3）

表1. 性別、年齢階級別にみた割合

年齢階級	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
30歳代	0	0.0	0	0.0	0	0.0
40歳代	0	0.0	1	1.8	1	1.4
50歳代	0	0.0	15	26.8	15	20.5
60歳代	10	58.8	26	46.4	36	49.3
70歳代	6	35.3	12	21.4	18	24.7
80歳代	1	5.9	0	0.0	1	1.4
不明			1	1.8	1	1.4
合計	17	100.0	56	98.2	73	100

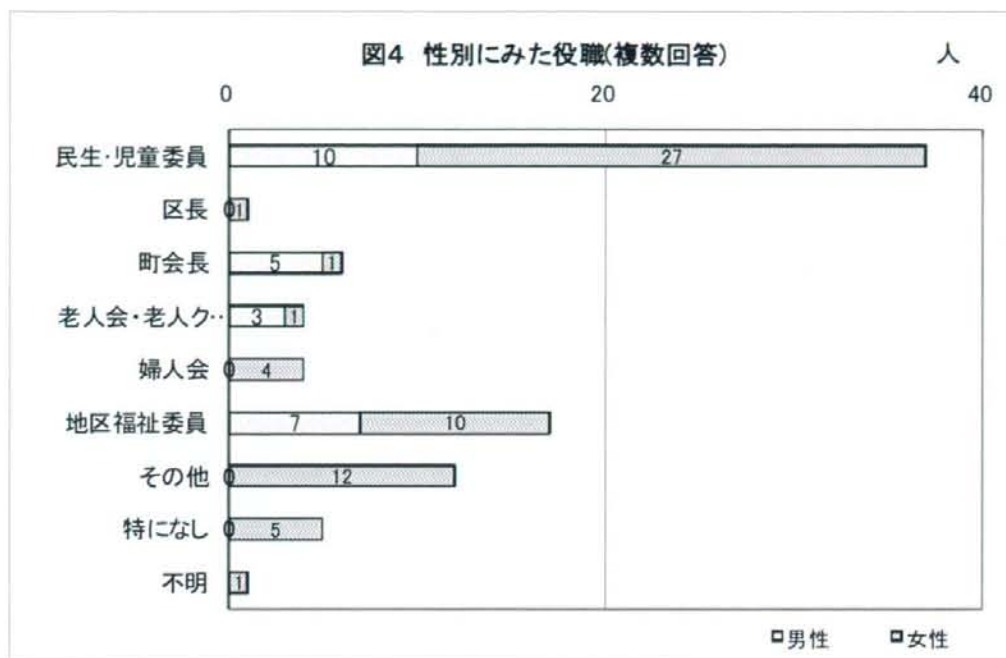


(3) 地域での役職

地域での役職をみると（表2）、民生・児童委員が37人（50.7%）と半数を占めていた。また2つ以上の役職を兼任している者もいた。各役職の男性・女性の人数は図4のとおりである。

表2. 性別にみた役職（複数回答）

	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
民生・児童委員	10	58.8	27	48.2	37	50.7
区長	0	0.0	1	1.8	1	1.4
町会長	5	29.4	1	1.8	6	8.2
老人会・老人クラブ	3	17.6	1	1.8	4	5.5
婦人会	0	0.0	4	7.1	4	5.5
地区福祉委員	7	41.2	10	17.9	17	23.3
その他	0	0.0	12	21.4	12	16.4
特になし	0	0.0	5	8.9	5	6.8
不明			1	1.8	1	1.4
	17	100.0	56	100.0	73	100.0

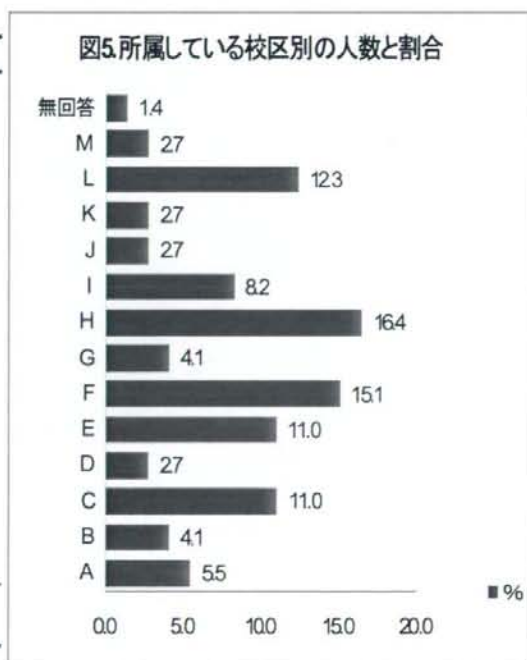


(4) 所属している校区

所属している校区により、人数、回収率に違いがみられた。(表3、図5)

表3. 所属している校区別の人数と割合

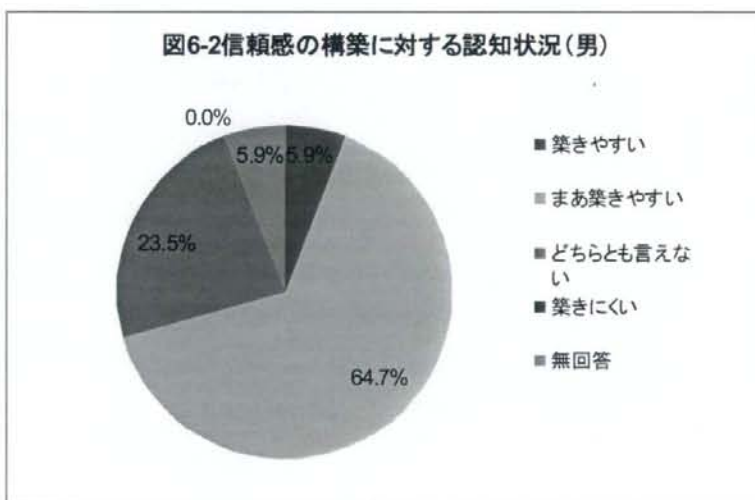
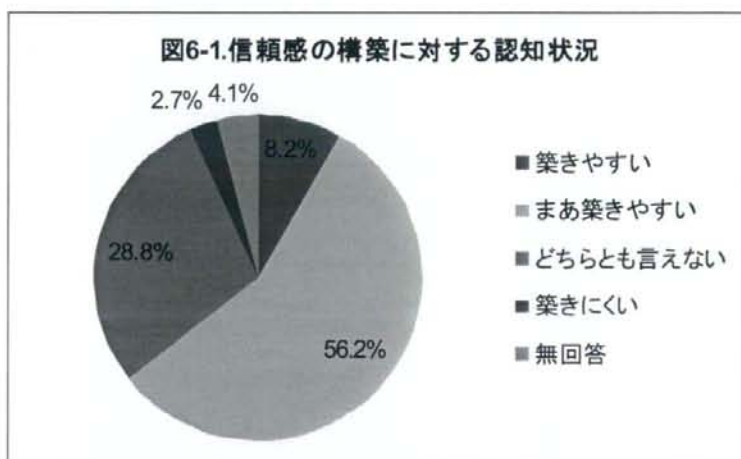
校区名	人数	%
A	4	5.5
B	3	4.1
C	8	11.0
D	2	2.7
E	8	11.0
F	11	15.1
G	3	4.1
H	12	16.4
I	6	8.2
J	2	2.7
K	2	2.7
L	9	12.3
M	2	2.7
無回答	1	1.4
合計	73	100.0

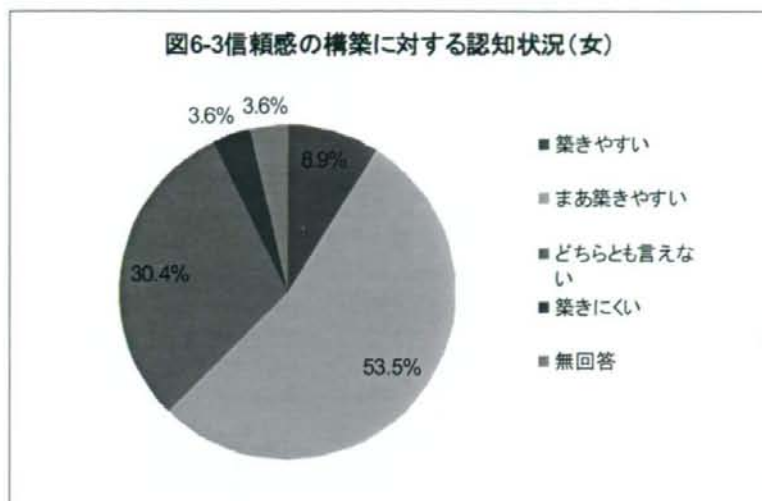


3) 地域や近所との関係について

(1) 信頼感の構築に対する認知の程度

「あなたの校区の人々は信頼感は築きやすいですか」の質問では、「築きやすい」が6人(8.2%)、「まあ築きやすい」が41人(56.2%)と概ね6割の人は築きやすいと認知していたが、「どちらとも言えない」21人(28.8%)、「築きにくい」2人(2.7%)と回答する人もいた(図6-1)。なお、無回答は3人(4.1%)であった。性別で見ると、男性は女性より築きやすいと認知している傾向があった(図6-2、6-3)。





(2) 人の役に立とうとすることに対する認知の程度

「地域の人は多くの場合、他の人の役に立とうとしたいと思いますか」という質問に対して、「とても思う」が6人(8.2%)、「まあ思う」が33人(45.2%)と半数の人は「思う」と肯定的回答をしていた。

しかし、「どちらともいえない」が27人(37.0%)、「そう思わない」が1人(1.4%)、無回答6人(8.2%)であり(図7-1)、性別でみると、女性は男性より役に立とうとしてしていると認知する傾向が認められた(図7-2、7-3)。

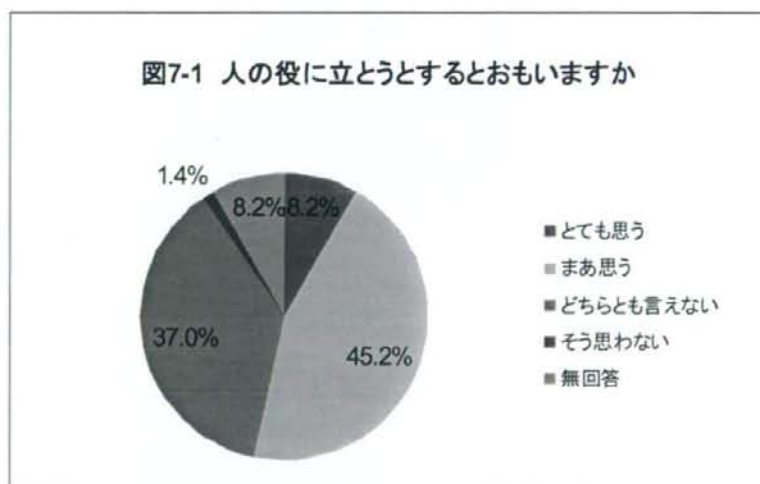


図7-2 人の役に立とうとするとおもいますか(男)

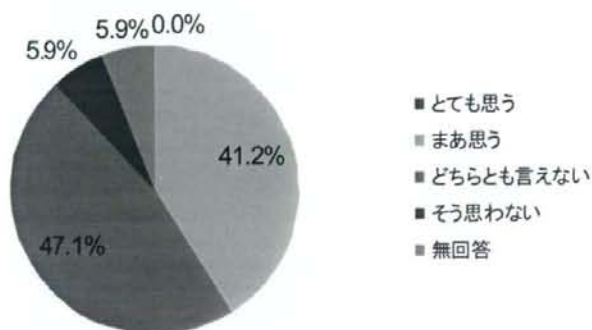
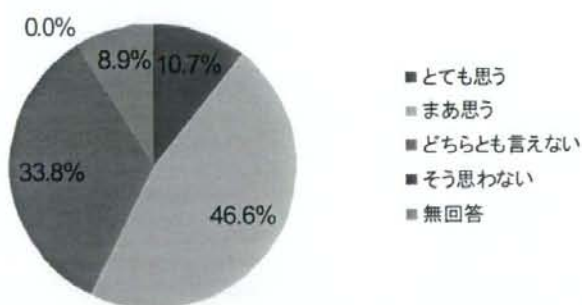
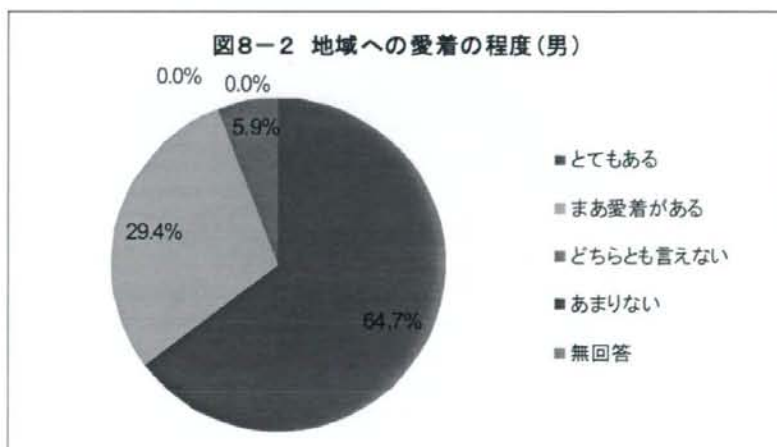
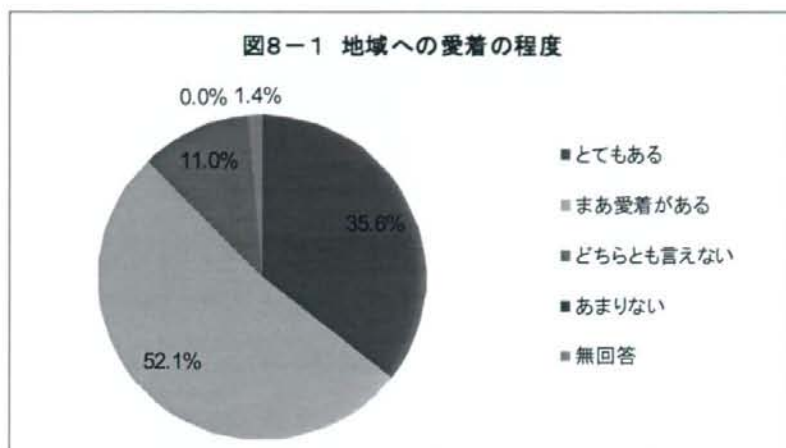


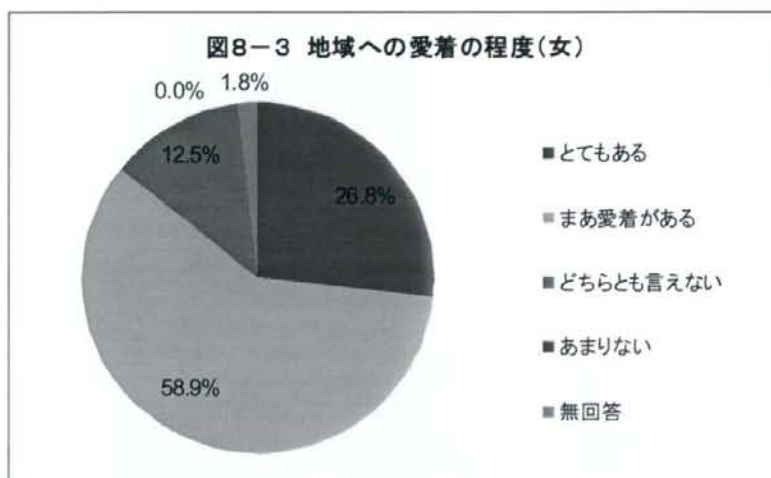
図7-3 人の役に立とうとするとおもいますか(女)



(3) 地域に対する愛着の程度

地域に対してどの程度愛着を感じているのかを質問した。「とてもある」が26人(35.6%)、「まあ愛着がある」が38人(52.1%)と8割以上の方が「愛着がある」と回答していた(図8-1)。なお、男性は女性に比べて有意に愛着があると感じていた(図8-2、8-3)。





(4) 近所との付き合い

近所との付き合いの程度については、「互いに相談したり、日用品の貸し借りをするなど生活面で協力している」が21人(28.8%)、「立ち話程度」が39人(53.4%)、「挨拶程度」が11人(15.1%)、無回答2人(2.7%)であり、「付き合いなし」と回答した人はなかった(図9-1)。性別でみると、男性は女性より「生活面で協力している」と回答している割合が有意に高くなっていた(図9-2、9-3)。

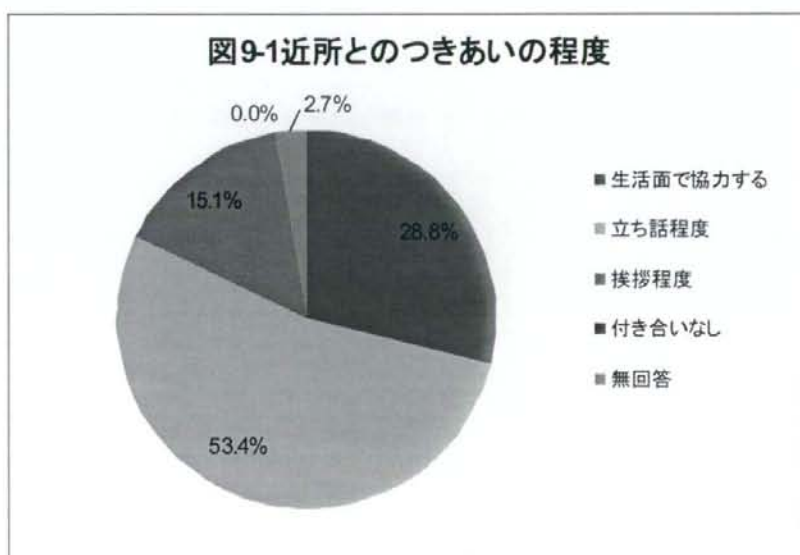


図9-2近所とのつきあいの程度(男)

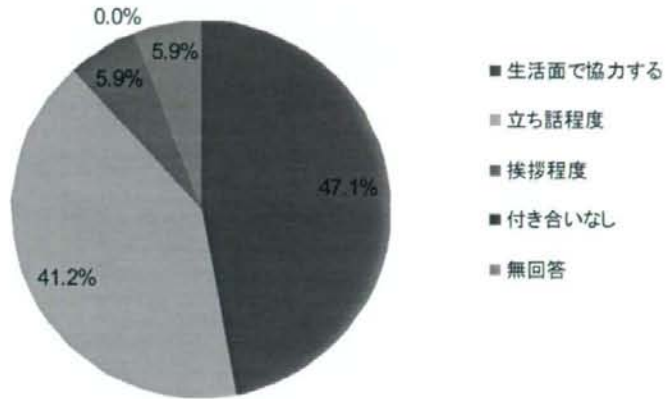
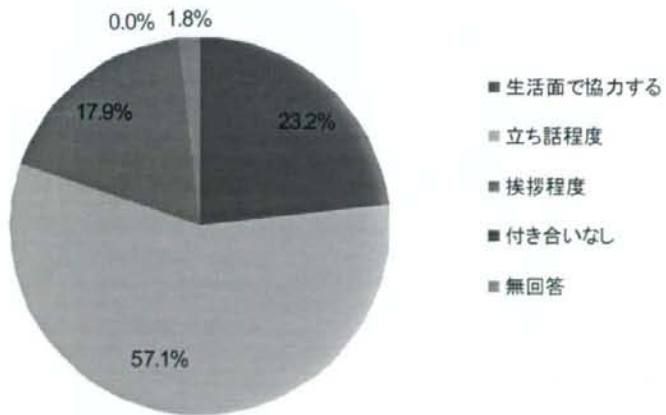


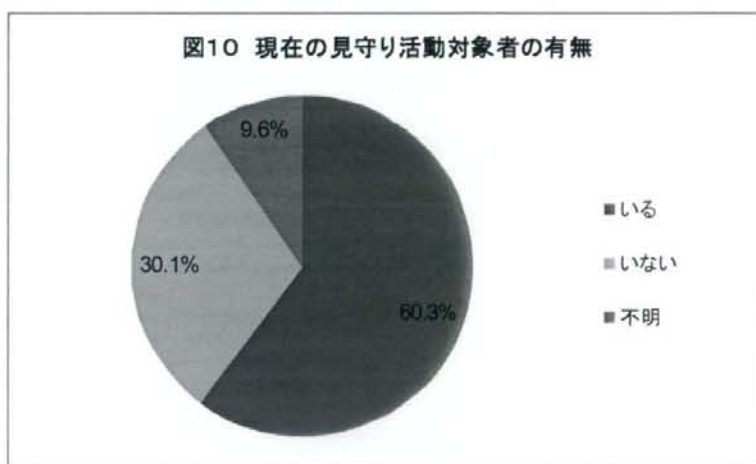
図9-3近所とのつきあいの程度(女)



4) 見守り活動

(1) 見守り活動の対象者の有無

現在（過去3カ月含む）の見守り対象者の有無をみると（図10）、「対象者がいる」が44人（60.3%）で、「対象者はいない」が22人（30.1%）、不明7人（9.6%）であった。



現在の見守り活動対象者が「いる」と答えた44人を性別にみると（表4）、男性は12人（70.6%）、女性は32人（57.1%）であり、男性の方が女性に比べ見守り対象のいる割合が多かった。

表4. 性別にみた見守り活動の対象者の有無

項目	男性		女性		合計	
	人数	性別%	人数	性別%	人数	項目別%
いる	12	70.6	32	57.1	44	60.3
いない	5	29.4	17	30.4	22	30.1
無回答	0	0.0	7	12.5	7	9.6
合計	17	100	56	100	73	100

現在の見守り対象者の有無を役職別にみると（表5）、区長が1人（100.0%）、民生・児童福祉委員が31人（86.1%）、町会長が5人（83.3%）、地区福祉委員が10人（58.8%）と見守り対象者のいる割合が高かった。

表5. 役職別に見た見守り対象者の有無

役職名	いる(人) %	いない(人) %	不明(人) %	合計	%
民生・児童委員	31 86.1	5 13.9	0 0.0	36	100.0
区長	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1	100.0
町会長	5 83.3	1 16.7	0 0.0	6	100.0
老人会・老人クラブ	1 25.0	2 50.0	1 25.0	4	100.0
婦人会	0 0.0	3 75.0	1 25.0	4	100.0
地区福祉委員	10 58.8	5 29.4	2 11.8	17	100.0
その他	3 25.0	6 50.0	3 25.0	12	100.0
特になし	2 40.0	3 60.0	0 0.0	5	100.0
合計	44 100.0	22 100	7 100	98	100

(2) 見守り活動の対象者

①世帯

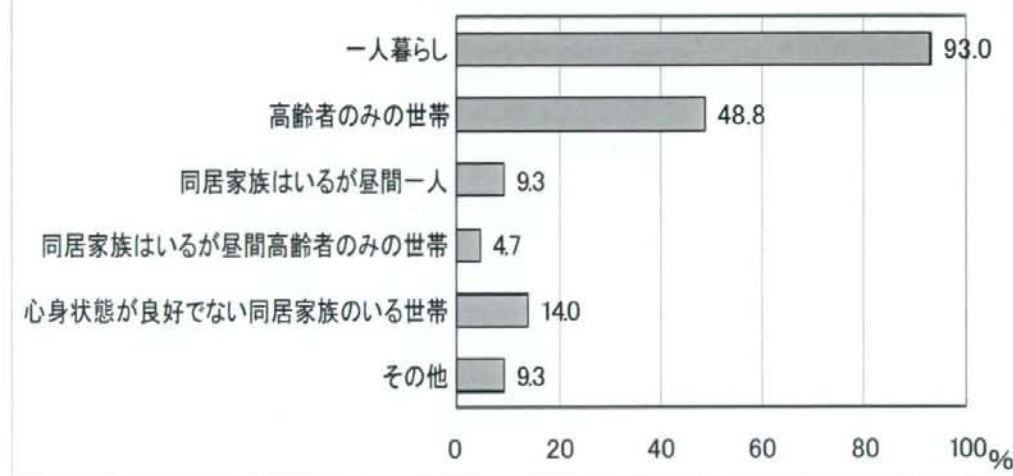
見守り活動の対象者（複数回答）でその内訳に回答のあった43人を世帯別にみると（表6、図11）、「一人暮らし」が40人（93.0%）、「高齢者のみの世帯」が21人（48.8%）と、独居・高齢者のみ世帯が主な見守り対象であった。

表6. 見守りしている対象者の世帯（複数回答）

世帯項目	人数	%
一人暮らし	40	93.0
高齢者のみの世帯	21	48.8
同居家族はいるが昼間一人	4	9.3
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	2	4.7
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	6	14.0
その他	4	9.3
合計	43	100.0

注) 1人は無回答

図11. 見守りしている対象者の世帯



注) 1人は無回答

②状態

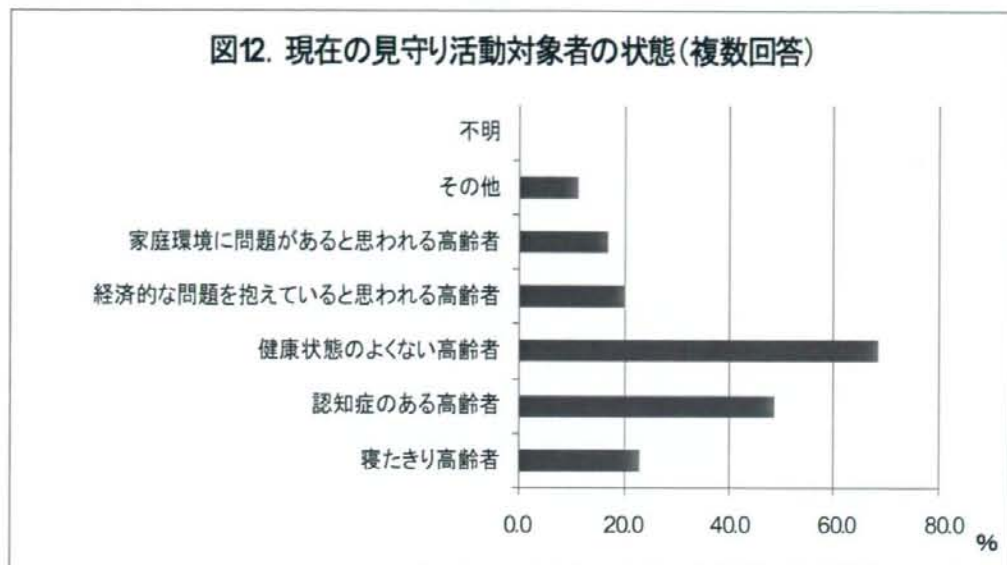
見守り活動の対象者で回答のあった35人を状態別にみると(表7、図12)、健康障害や認知症・寝たきりの高齢者などの健康問題をかかえた状態が主であるが、経済面・家庭環境の問題もとらえられていた。

表7. 現在の見守り活動対象者の状態(複数回答)

状態項目	人数	%
寝たきり高齢者	8	22.9
認知症のある高齢者	17	48.6
健康状態のよくない高齢者	24	68.6
経済的な問題を抱えていると思われる高齢者	7	20.0
家庭環境に問題があると思われる高齢者	6	17.1
その他	4	11.4

注) 9人は無回答

図12. 現在の見守り活動対象者の状態(複数回答)



注) 9人は無回答

③方法

見守りの方法別にみると(表8、図13)、主たるものは訪問であったが、家の外からの見守りや、電話での見守り、さらに近隣等と協同行っているなどであった(表中の数値は44人に対する割合)。

表8. 見守り内容(複数回答)

	n=44	
	人数	%
訪問	39	88.6
電話	6	13.6
家の外から見守り	8	18.2
協力員・近隣から伺う	5	11.4
その他	4	9.1

図13. 見守り内容(複数回答)



(3) 見守りしている人数と頻度

①人数

見守りしている人数の合計は254人であり、一人当たりの平均は8.8人(標準偏差7.7人)であった。1~3人が最も多く10人、4~9人が9人であったが、10人以上も7人(26.9%)であった。電話での見守りでは10人以上が4人、屋外からの見守りは1~3人が3人であった。(表9)

表9.見守りの対象人数

	訪問	%	電話	屋外からの見守り
1~3人	10	38.5	0	3
4~9人	9	34.6	0	0
10人以上	7	26.9	4	0
合計	26	100	4	3

②頻度

見守りの頻度は表10に示すように、回答のあった25人では、月1回程度が最も多く15人であった。しかし、週1回以上の9人の内訳では、毎日が3人、週1回が6人であった。なお、現在の見守り方法や頻度についての回答のあった28人の自己評価では、「適当である」が26人(92.9%)、「変更の必要がある」は僅か2人(7.1%)であった。

表10.見守りの頻度別人数

	訪問(人)	%	電話(人)	屋外からの見守り
1週間に1回以上	9	36.0	0	3
2週間に1回以上	0	0.0	0	0
月1回程度	15	60.0	4	0
2か月に1回程度	1	4.0	0	0
合計	25	100	4	3

(4) 見守りに至ったいきさつ

見守りを行ったいきさつについて回答のあった36人の内訳をみると(表11、図14)、多かったのは「一人暮らしや75歳以上の高齢者世帯の実態把握から」が19人(52.8%)、「近所の人からの相談」が9人(25.0%)であった。

表11.見守りに至った経緯(複数回答)

項目	n=36	
	人数	%
本人からの相談	6	16.7
同居家族からの相談	3	8.3
近所の人からの相談	9	25.0
別居家族や親族等の相談	4	11.1
最近見かけなくなったなどの変化の気付き(日常の変化から)	3	8.3
ネットワーク委員会からの情報交換	6	16.7
ケアマネや専門職などから依頼	2	5.6
地区社会福祉協議会から	0	0.0
一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から(実態調査)	19	52.8
その他	6	16.7
役割上	2	5.6

図14.見守りに至った経緯(複数回答) n=36



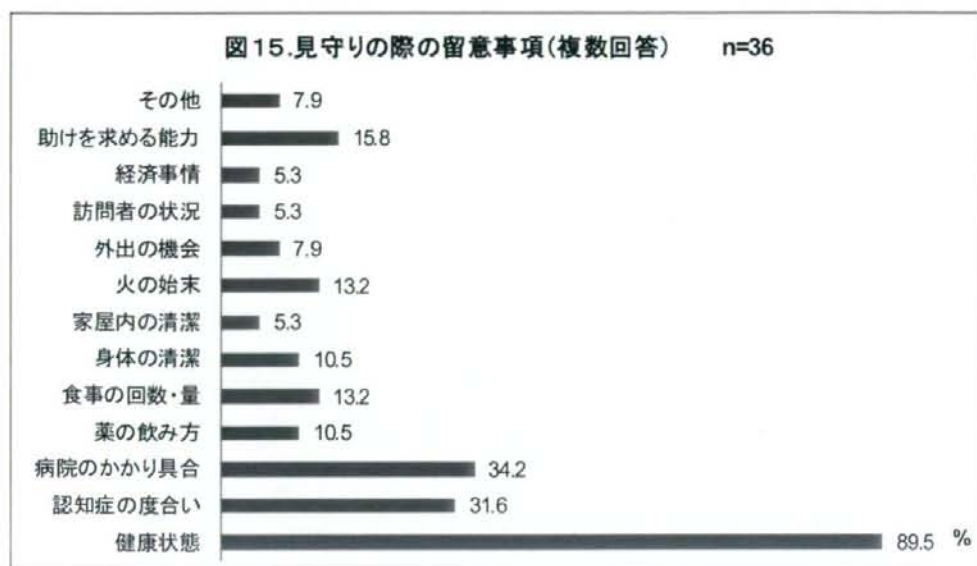
(5) 見守りの際の留意事項

見守りの際に注意していることを項目別にみると(表12、図15)、「健康状態」が34人(89.5%)と高いが、多岐にわたり留意されている。

表12.見守りの際の留意事項(複数回答)

n=38

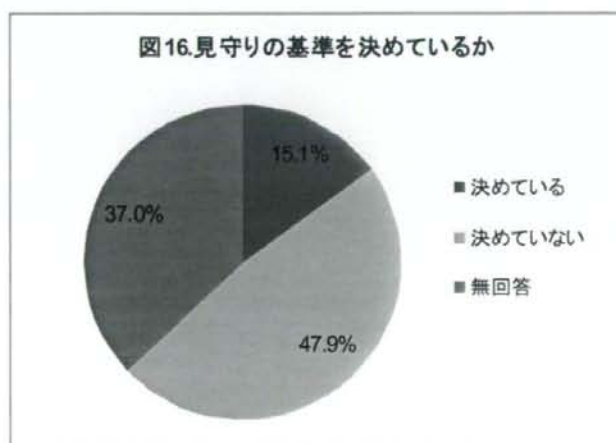
項目	人数	%
健康状態	34	89.5
認知症の度合い	12	31.6
病院のかかり具合	13	34.2
薬の飲み方	4	10.5
食事の回数・量	5	13.2
身体の清潔	4	10.5
家屋内の清潔	2	5.3
火の始末	5	13.2
外出の機会	3	7.9
訪問者の状況	2	5.3
経済事情	2	5.3
助けを求める能力	6	15.8
その他	3	7.9



(6) 見守り基準の有無とその内容

①有無

見守り基準の有無をみると(図16)、「決めている」が11人(15.1%)、「決めていない」が35人(47.9%)、「無回答」が27人(37.0%)であった。校区で見守り基準を決めているのではなく、それぞれが自分の基準で行っている割合が高かった。



②内容

見守りの基準の有無で「決めている」と答えた人で、その具体的な内容が記載してあった10人の具体的な内容は表13のとおりである。世帯状況や年齢、要介護度などがあげられていたが、統一されたものではなく個人によって様々な取組をしていることが明らかになった。

表13. 見守り基準の具体的な内容(自由回答)
・一人暮らし。
・65歳以上の一人暮らし、老老介護状態の人。
・高齢者で一人暮らしの方、いきいきサロン・ふれあい喫茶等への参加を誘う。
・一人暮らし高齢者・要介護3以上・緊急通報システム登録者。個人情報 の問題があるので把握することが困難。
・一人暮らし高齢者・要介護3以上・緊急通報システム登録者。
・一人暮らしの65歳以上。
・独居老人。
・民生委員の受け持ち区域。
・ふれあい配食(月2回)、災害時一人も見逃さない運動、ふれあい食事 会、いきいきサロン。
・状況により週1回、月1回。

③早期に対応できた事例の有無

見守りの基準により早期に対応出来た事例の有無をみると、「ある」が5人、「ない」が5人であった。早期対応した事例が書かれていた2事例については、「保健センターや在宅介護支援センターに相談して入院することができた。」「近所の人の通報及び月1回しているサロンの案内配布により状況がわかったことがある。」などの記載があった。

(7) 見守りの効果

見守りの効果について回答のあった30人の内容を項目別にみると(表14、図17)、見守りが次の援助につながったり、早期把握、地域の結びつき・連携に影響していると回答されている。

表14. 見守りの効果について(複数回答)	内容	n=30	
		人数	%
	困っている方を早期に把握できた	10	33.3
	困っている方の援助につながった	12	40.0
	孤立している方を早期に把握できた	6	20.0
	孤立している方の援助につながった	8	26.7
	困ったことがあれば、相談をしてくれるようになった	19	63.3
	地域の方々の結びつきが強くなった	5	16.7
	地域での他職種間の連携がよくなった	2	6.7
	その他	1	3.3
	わからない	1	3.3

図17 見守りの効果について(複数回答) n=30



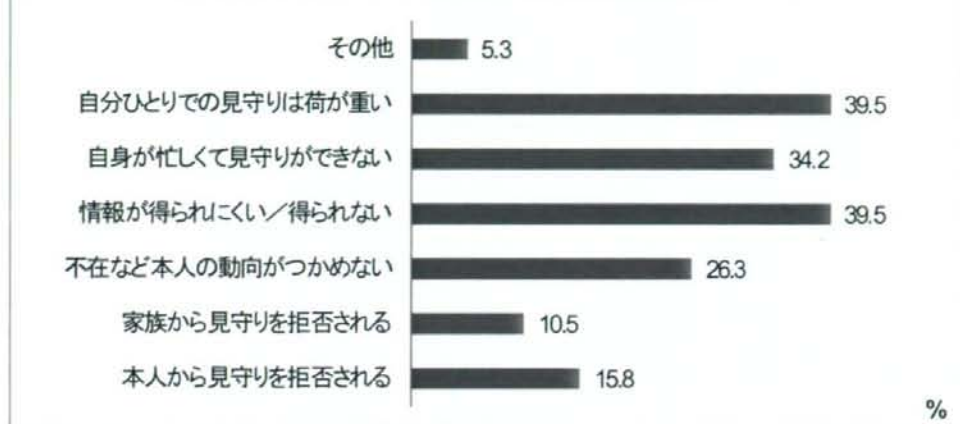
(8) 見守りの困難な点

見守りの困難な点に回答のあった38人の内容は、情報が得られにくい、不在など本人の動向がつかめない、という見守り対象の状況がわからないということと、自分ひとりでの見守りは荷が重いということ、本人や家族から見守りを拒否されることなどである。(表15、図18)

表15.見守りをする上で困難に思う点(複数回答) n=38

内容	人数	%
本人から見守りを拒否される	6	15.8
家族から見守りを拒否される	4	10.5
不在など本人の動向がつかめない	10	26.3
情報が得られにくい／得られない	15	39.5
自身が忙しくて見守りができない	13	34.2
自分ひとりでの見守りは荷が重い	15	39.5
その他	2	5.3

図18.見守りをする上で困難に思う点(複数回答) n=38



見守りの困難な点に対する解決策では、「あり」と記載のあった10人の内容(表16)は、地域の人々の協力を得ると言う意見が多く、行政や、ケアマネジャーとの連携の必要性などがあげられていた。また、民生委員の方からは、役職の兼務を減らすことで、見守りに専念できる可能性が記載されていた。

表16 見守り困難の解決方法

- ・ 地域(近所・隣組)を巻き込み、協力してもらう。
- ・ 地域の人々の参加。
- ・ 地域の人々に認識を持ってもらう。
- ・ 本人に家族(子ども)がいる場合は、家族に連絡しても受け入れられることが必要(連絡しても拒絶されることがある)。
- ・ 市の方からの見守りもしてほしい。
- ・ 他人の言うことをなかなか受け入れない方がいるので、生活援護課の方、ケアマネジャーの方に相談をする。
- ・ 他の役職を減らして民生委員だけになればと考えています(7つの役職を兼任)。
- ・ 個々により、自分のバリアに踏み込まれることが嫌な人があり、それぞれの情報が入りにくい。
- ・ 法律の件。

(9) 担当地区の高齢者の人数の把握の有無

担当地区に住んでる高齢者の人数把握についてみると（表17、図19）、無回答が23人（31.5%）と3割を超えており、「わかる」が4人（5.5%）、「ほぼわかる」が31人（42.5%）で、この二項目でほぼ5割を占めた。

	人数	%
わかる	4	5.5
ほぼわかる	31	42.5
少ししかわからない	9	12.3
わからない	6	8.2
無回答	23	31.5
合計	73	100

